



J Aの職員から説明を受ける参加者

農地の保全へ 3品目説明会

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】JA伊勢は2月下旬、管内の施設7カ所で春夏野菜を対象とした栽培説明会を開いた。就農者を増やし、地域の農地保全につなげるのが狙

い。4日間で合わせて84人が参加した。

この日は、同JAから市場出荷をしているオクラとサツマイモ、カボチャの春夏野菜3品目について説明をした。この3品目は、単価が安定していることに加え、生産資材を同JAで一括購入していることから生産コストを抑えられる。JA職員は、品種や栽培管理、病害虫対策を説明した。収量や単価など

の経営面のメリットを紹介し、誰でも安心して栽培を始められるとアピールした。

説明会の主な対象は退職者や主婦らで、副業の選択肢として農業を選んでもらい、生産者を増やして農業振興につなげていく。

営農指導員が定期的に栽培を始めた人の圃場（ほじょう）に出向いて栽培指導を行う。生育状態を見ながら指導をするので、ニーズ

に沿ったきめ細かな指導が可能だ。

JAの担当者は「収入が得られると実感できれば、農業を継続してもらえる。就農者を増やすことで、耕作放棄地を少しでも減らし、地域の農地保全につなげたい。まずは気軽に農業を楽しんでもらいたい」と話す。

同JAは6月にも秋冬野菜5品目を対象にした野菜栽培説明会を開く予定だ。